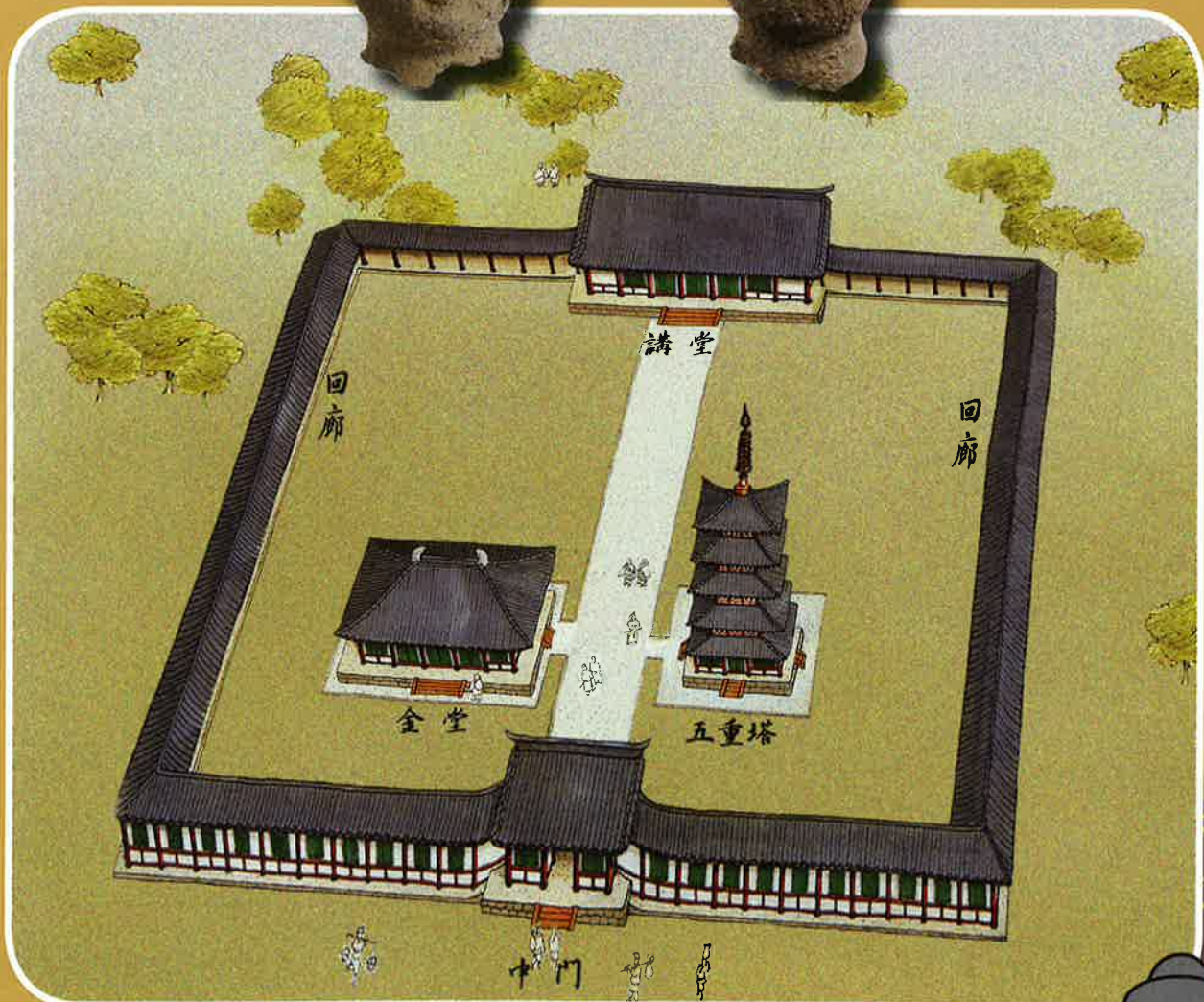


～古代の前橋にタイムトリップ～  
よみがえる白鳳の世界へ

国指定史跡

# 山王麿寺跡



さあ！悠久の時を超えた時空旅行に出発しましょう。



# 古代の群馬は「上野国」 その中心は前橋！

古代上野国は大和朝廷を支える大国として重要な役割を果たしてきました。とりわけ前橋市総社・元総社地区は群馬を代表する総社古墳群、山王廃寺、国分寺や国府などの古墳時代終末期から飛鳥・白鳳文化、律令社会にいたる重要な遺跡が集中しています。



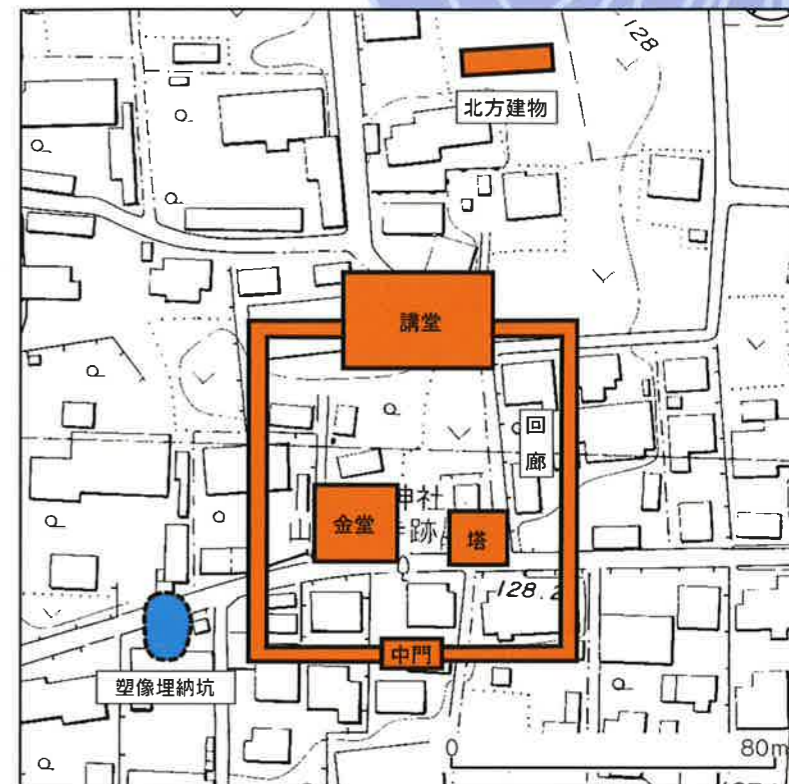
5世紀	6世紀	7世紀	8世紀
●1 遠見山古墳	●2 玉山古墳	7 山王廃寺	8 国府
	●3 総社二子山古墳 ●4 愛宕山古墳	●5 宝塔山古墳	9 国分僧寺
		●6 蛇穴山古墳	10 国分尼寺

総社・元総社地区の古代遺跡

# 山王廃寺 東日本最古の本格的寺院が前橋にあった！

山王廃寺は大正時代のはじめに塔心礎が発見されたことによって、その存在が明らかとなり、昭和3年に「山王塔址」として国の史跡に指定されました。その後、平成20年に追加指定を受け、名称も「山王廃寺跡」に変更されました。

最近の調査により、80m四方の回廊に囲まれ、北に大きな講堂が建ち、その南に塔と金堂が東西に並ぶことから、奈良斑鳩の法起寺と共通した配置と考えられます。



建物の基礎の大きさ

建物	東西	南北
講堂跡	37.8m	24.5m
塔跡	13.5m	13.5m
金堂跡	22.0m	21.7m
北方建物跡	22.5m	9.2m
回廊跡	79.7m	82.4m



塔基礎の調査



金堂の全容



細かく突き固めた金堂の版築

# 山王廃寺のみごとな石造美術



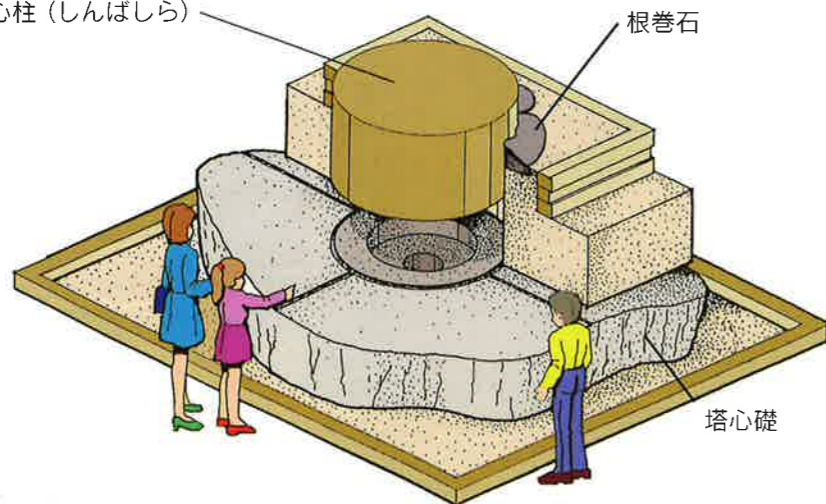
根巻石（国指定重要文化財）



塔心礎

心柱（しんばしら）

根巻石



塔の基礎を飾った石造品

山王廃寺には塔心礎、根巻石、鷗尾、礎石、露盤など、精密に加工された石造物がたくさんあります。

塔心礎は輝石安山岩をもちいて、柱のホゾ穴、お釈迦様の骨を納めた舍利孔、環状の溝や東西南北を指す十字溝をたんねんに磨き加工しています。

山王廃寺の石造品加工技術は、宝塔山古墳と蛇穴山古墳の石室加工技術と共に高度なものです。

当時の県内には、これほどの卓越した技術はないと考えられることからヤマト王権と密接な関わりのある有力豪族の氏寺であると考えられます。

このようことから、寺の建造者は、東北経営や新羅遠征で功績を挙げた上毛野君と考えられています。

鷗尾は、金堂や講堂などの重要な瓦葺建物の大棟の両端に据えられたものです。火災の時には口から水を吹き出すと考えられていた空想の生物です。

鷗尾のほとんどが瓦製ですが、石製ものは鳥取大寺廃寺と山王廃寺にしかありません。発見されている2体の鷗尾の形に違いがあることから、2棟の建物に別々の鷗尾があったのではないかと考えられています。



奈良・唐招提寺金堂の鷗尾（天平時代・国宝）



日枝神社の鷗尾（A）



個人蔵の鷗尾（B）

# 法隆寺に匹敵する塑像群が発見された



女性像頭部（左：昭和 34 年発見、右：平成 11 年発見）



埋納坑から出土した人物像



平成 9・11 年の埋納坑調査で出土した塑像

山王廃寺に粘土製の塑像が存在することは、昭和 34 年に女性像頭部が出土したことなどから、推測されていました。

平成 9 年の調査では、塔が火災にあったため焼けた塑像などをまとめて埋めた大きな穴（埋納坑）が、塔から西へ約 40 m の地点で発見されました。その中から、瓦片や土器に混じって人物、動物、山岳、磯形、壁画などいろいろな塑像片を見つけることができました。さらに平成 11 年にはこの埋納坑の詳細な発掘調査で 3,000 点以上もの塑像片が見つかりました。この中から昭和 34 年に発見された個人蔵の女性像頭部と対になる像も発見されています。

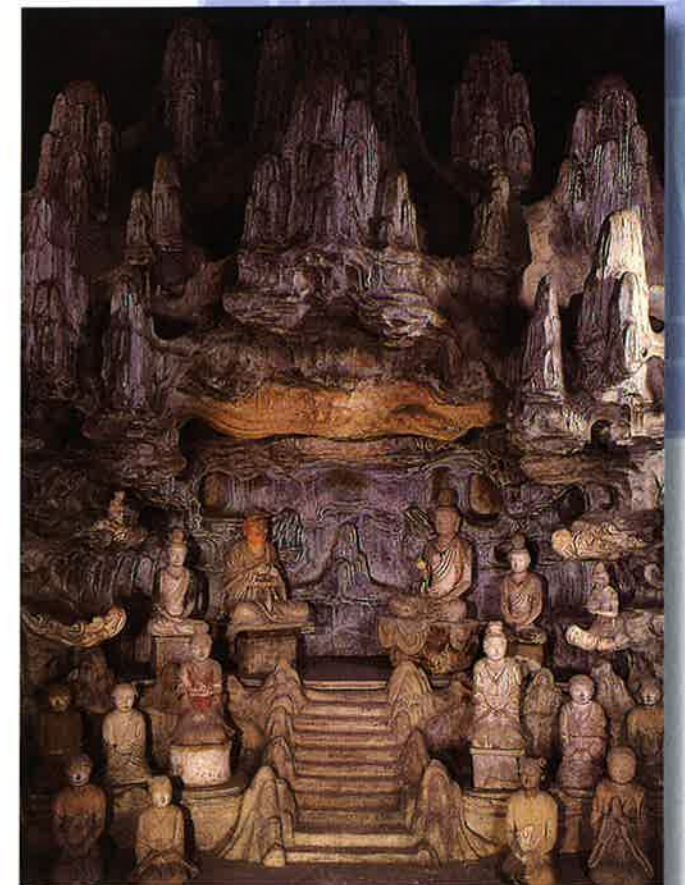


埋納坑調査の様子

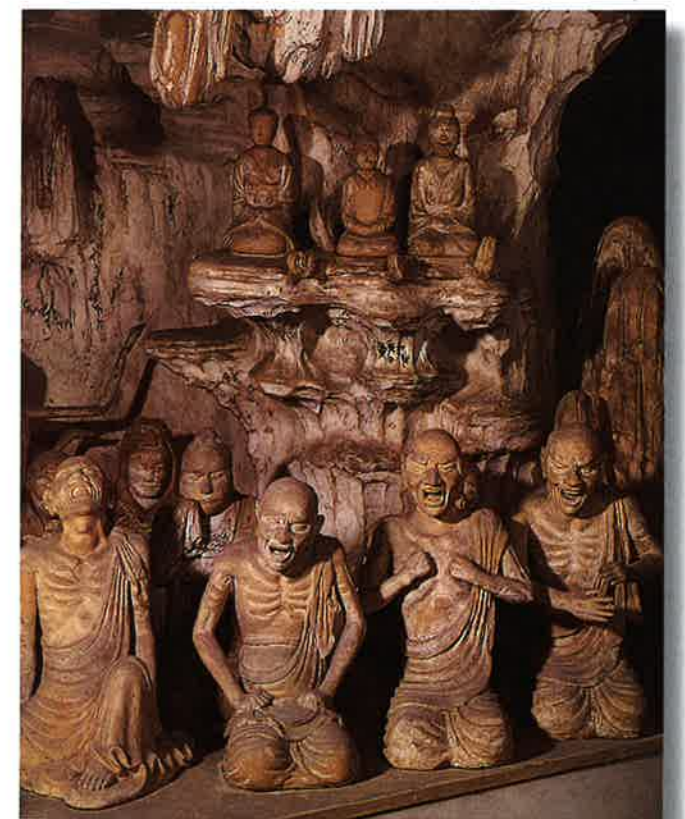


埋納坑から出土した神将像

これらの小塑像を造る思想は仏教美術とともにガンダーラから中央アジア・朝鮮半島を経て日本に伝わってきました。山王廃寺塑像群の製作水準はきわめて高く、法隆寺五重塔の初層の東西南北の四面に設置された塔本塑像群と比べても何ら遜色がありません。地方の仏師によるものでなく、中央から派遣された仏師によって製作されたことが考えられます。



国宝・法隆寺五重塔の塑像群（東面・維摩詰像土）



国宝・法隆寺五重塔の塑像群（北面・涅槃像土）

# 山王廃寺は「放光寺」だった！



「放光寺」とヘラ書きされた瓦



「方光」とスタンプされた瓦

昭和 56 年の発掘調査で、「<sup>ほうこうじ</sup>放光寺」と書かれた 1 枚の文字瓦が発見されました。地元の地名をとって仮に「山王廃寺」と呼ばれていたこの寺が、古文書に登場する「放光寺」と同一のお寺であることが分かりました。

国特別史跡「<sup>ながとし</sup>山上碑」には、放光寺の僧である長利が母親を弔うために 681 年にこの碑を建てたと記され、発掘調査の結果とあわせると、7 世紀後半には山王廃寺は存在したということがわかります。

『<sup>こうぜのくにこうたいじつろくちょう</sup>上野国交替実録帳』によれば、放光寺は国分寺に準ずる格式の高い「<sup>かくしき</sup>定額寺」であることがわかります。しかし、1030 年の時点で、<sup>こうはい</sup>荒廃して寺院の<sup>ていさい</sup>体裁を整えていないので定額寺からはずしてほしいという願いが出されていました。発掘調査の<sup>せい</sup>成果とあわせると、11 世紀には放光寺である山王廃寺は寺としての機能を果たして<sup>は</sup>いなかったことが<sup>すいてい</sup>推定されます。



国特別史跡・山上碑

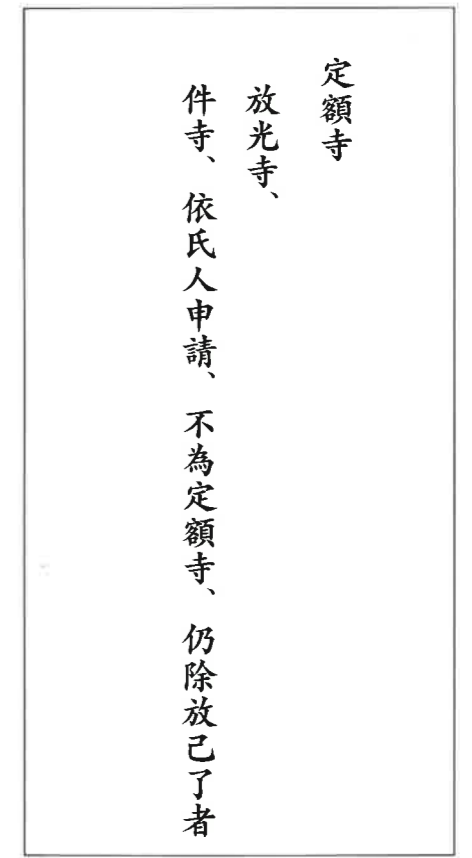


拓本

原文（白文）



上野国交替実録帳 定額寺の項



原文（白文）

## 山王廃寺の軒を飾った瓦

山王廃寺の<sup>こんどう とう</sup>金堂や塔には、たくさんの瓦が使われました。<sup>のきまるがわら</sup>軒丸瓦には蓮の花をかたどった文様が付けられ、<sup>こせん</sup>弧線の文様が付けられた軒平瓦と組み合わせられ葺かれていました。軒丸瓦の文様は<sup>りゅうきせんもん</sup>隆起線文、<sup>たんぺんはちようれんげもん</sup>単弁八葉蓮華文、<sup>ふくべんななようれんげもん</sup>複弁七葉蓮華文、<sup>ふくべんはちようれんげもん</sup>複弁八葉蓮華文など15種類を数えます。軒平瓦の文様は、<sup>じゅうこもん</sup>重弧文など9種類がみついています。瓦に付けられた文様からは、瓦の作られた時代や寺の系統などが解明できます。瓦には、文字や記号が付いているものも多数ありました。「放光寺」文字もそのひとつです。



隆起線文軒丸瓦



単弁八葉蓮華文軒丸瓦



複弁七葉蓮華文軒丸瓦



重弧文軒平瓦

## 山王廃寺から出土したさまざまな美術品



宝相華文の金銅製品と金箔付木製品

総社町山王地区からは山王廃寺との関連がある金箔の貼られた豪華な木製品をはじめ、高度な仏教美術を感じさせる<sup>ほうそうげ</sup>宝相華文の金銅製品などが発見されています。



宝相華文が付けられた金銅製品



銅椀（国指定重要文化財）



緑釉陶器（国指定重要文化財）

# 総社古墳群を歩く

総社古墳群は遠見山古墳、王山古墳、総社二子山古墳、愛宕山古墳、宝塔山古墳、蛇穴山古墳で構成されています。

名称	時期	おもな特徴
遠見山古墳	5世紀後半	全長70mの前方後円墳、江戸時代には総社城の物見櫓として使われていた。
王山古墳	6世紀初頭	市指定史跡。全長75.6mの前方後円墳。
総社二子山古墳	6世紀後半	国指定史跡。全長90mの前方後円墳。前方部と後円部に二つの横穴式石室をもつ。
愛宕山古墳	7世紀前半	一辺56mの方墳。県下最大級の石室、家形石棺をもつ。
宝塔山古墳	7世紀中～後半	国指定史跡。一辺66mの方墳。堀を含めた大きさは102m。総社藩主秋元氏の墓地として利用。載石切組積石室、家形石棺をもつ。石室壁面に漆喰。
蛇穴山古墳	7世紀末葉	国指定史跡。一辺43mの方墳。2重の堀。堀を含めた大きさは82m。完成度の高い横穴式石室をもつ。石室壁面に漆喰。

総社古墳群一覧表



愛宕山古墳の調査の様子（1995年撮影）

愛宕山古墳は県下最大級の石室をもち、家形石棺が安置されています。横穴式石室に家形石棺を配した例は、群馬県ではこの愛宕山古墳と宝塔山古墳など6例を数えるにすぎません。この時期、家形石棺をもてるのは大王家とその一族、それに政権を構成する有力氏族にほぼ限定されていました。上野地域への直接的な影響力を強めたかったヤマト王権と総社古墳群の豪族「上毛野氏」の強い関係を知ることができます。



愛宕山古墳の家形石棺



宝塔山古墳の家形石棺



宝塔山古墳の石室と石棺

宝塔山古墳には羨道、前室、玄室（後室）で構成される石室があります。壁や天井には、きれいに面取り加工した安山岩の載石が使われ、表面に漆喰が塗られ、玄室には家形石棺があります。硬い石材を平滑に仕上げることは、地方の技術ではできないことから大和朝廷とのつながりや、家形石棺の脚部四隅に彫り出された格狭間の意匠からは仏教文化との関連がみられます。また、蛇穴山古墳の石室も漆喰が塗られ、白壁に仕上げられています。漆喰もまた関東地方ではこの2つの古墳と吉岡町南下A号墳に限られ用いられています。

山王廃寺が造営されたのは、ちょうど宝塔山古墳、蛇穴山古墳が造られた時期に一致します。特徴的な硬い石材を見事に加工する技術は大和地域において7世紀中葉以降顕著になるものです。総社古墳群のこの技術の出現も、ヤマト王権との関係なくしては考えられません。



蛇穴山古墳中堤コーナーの葺石

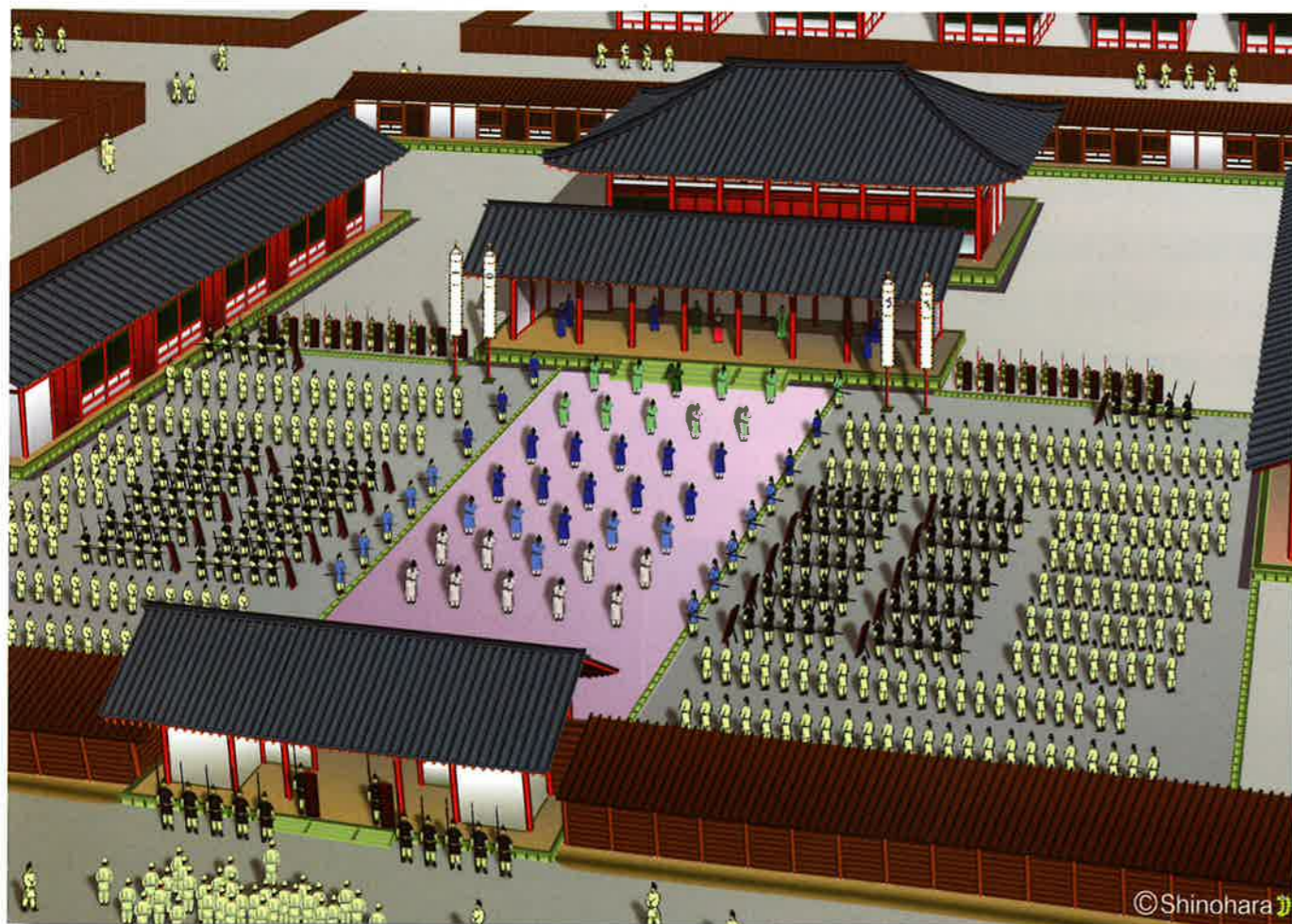


蛇穴山古墳

## 上野国府は前橋市元総社町にあった

上野国は国の中でも「**大国**」の等級に位置づけられ、重要な地とされていました。国府の位置は、『**倭妙類聚鈔**』（和名抄）の**群馬郡**の注の記述から、上野国府は現在の前橋市元総社町付近にあったということになります。

発掘調査の結果、元総社小学校校庭遺跡では建物跡が2棟ほどみつきり、**宮鍋様**と呼ばれる祠の南からも国府と同時期と考えられる掘立柱建物跡の柱穴がみつかりました。閑泉樋遺跡では上幅5m、下幅3.2m、深さ1.2mの東西に走る大溝がみつかりました。この大溝は上層を1108年に浅間山から噴出した浅間B軽石が覆っていることから、国府の北限を画する古代の大溝である可能性も考えられます。さらに元総社**明神遺跡群**の調査では延長距離で400mにわたる南北方向の大溝が見つかりました。ここでも浅間B軽石がみつかりしているので、これも国府の地割の一部だろうと考えられています。国府の全貌がわかるまでもう一步のところまでできています。



国府における元旦の儀式のようす（篠原祐一氏：下野国府「朝賀の儀」より）

いらが

## 天平の薨、国分僧寺と国分尼寺



国分僧寺復元想像図

国分寺は奈良時代に、**聖武天皇**の命によって全国に建てられました。僧寺と尼寺があり、**国分二寺**ともいいます。

群馬県は関越自動車道をはさんで東に尼寺、西に僧寺があります。僧寺は昭和55年から発掘調査が行われ、その成果にもとづいて南面の**築垣**（土をつき固めた塀）や塔・金堂の**基壇**が復元されて、史跡公園として公開されています。

尼寺は畑地に今もなお、ひっそりと埋もれています。



築垣の薨



塔の基壇





# 前橋市総社・元総社地区の歴史

時代	年	総社・元総社地区のうごき	日本のうごき		
古墳時代	5世紀後半	遠見山古墳が造られる。	百済から仏教が伝わる。		
	6世紀初頭 538	王山古墳が造られる。			
	6世紀後半	総社二子山古墳が造られる。			
飛鳥・白鳳時代	603 604 607	愛宕山古墳が造られる。 7世紀前半 645 646 7世紀後半 山王廃寺が建てられる。 7世紀後半 蛇穴山古墳が造られる。 この頃、国府が設置される。 681 山上碑が建てられる。 694 698 701	聖徳太子が冠位十二階を制定する。 聖徳太子が十七条の憲法を制定する。 聖徳太子が法隆寺を建てる。 飛鳥文化が栄える。 いっし <sup>へん</sup> の <sup>へん</sup> （大化の改新）が起る。 改新の詔を出す。 白鳳文化が栄える。		
	710		この頃、塔本塑像が作られる。	藤原京に都を移す。 薬師寺ができる。 大宝律令ができる。	
	741 745		この頃、国分僧寺・国分尼寺が建立される。	平城京に都を移す。 国分僧寺・国分尼寺建立の詔が出る。 東大寺が建立される。 天平文化が栄える。 唐招提寺が建立される。	
	759			平安京に都を移す。	
	794				
	平安時代		1030	放光寺を定額寺からはずす申請がなされる。	
			1108	浅間山の噴火により軽石が降る。（浅間B軽石）	

## 群馬まほろばの旅

さあ！悠久の時を超えた時空旅行に出発しよう。

JR 群馬総社駅→総社二子山古墳→愛宕山古墳→天狗岩用水→総社資料館→光厳寺→宝塔山古墳→秋元氏歴代の墓→蛇穴山古墳→山王廃寺跡→国分尼寺→国分僧寺→宮鍋神社（国府）→総社神社→JR 新前橋駅（参考1日コース）

### ～古代の前橋へタイムトリップ～

よみがえる白鳳の世界へ

国指定史跡 **山王廃寺跡**

平成 27 年 3 月 発行

前橋市教育委員会事務局文化財保護課

371 - 0853 前橋市総社町三丁目 11-4

電話 027-280-6511

E-mail bunkazai@city.maebashi.gunma.jp



山王廃寺からみた国分寺・国府